加入国際学術団体に関する調査票

1　国際学術団体活動状況（内規第 11 条　活動報告）

<table>
<tr><td rowspan="3">団体名</td><td>和</td><td>国際実験動物科学会議</td></tr>
<tr><td>英</td><td>International Council for Laboratory Animal Science（略 称 ICLAS）</td></tr>
<tr><td>団体 HP（URL）</td><td>https://iclas.org
（日本学術会議が加盟していることの記載　有　・　無　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">国際学術団体における最近のトピックについて
（学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等）</td><td>2020 年初頭以来の COVID-19 パンデミックにより、ICLAS がつかさどる世界の実験動物科学とそのコミュニティーは、感染症対策医療技術開発において動物実験が担うべき中心的役割を果たし、そのための実験動物施設を維持して機能させ続けるために、一時的に麻痺しかけた各国の実験動物運用体制を立て直すべく緊急の対応を迫られた。この世界的な喫緊の要請に応えるべく、ICLAS は下記の２つの対策を迅速に策定し実施した。

１）ニューズレターによる実検動物施設運用指針の適時迅速な公表：
2020 年３月 26 日発行の『ICLAS News』を通じて、COVID-19 の急拡大フェーズにおける動物飼育･実験施設の管理下動物の維持や､職務従事人員の業務継続体制に関する８項目の簡潔で効果的な運用指針をいち早く発出し、これが各国各種機関などの実験動物施設の緊急対策にとりいれられ、実験動物実施の継続にかかる混乱の回避に大きく貢献した。

２）リモート業務体制整備への支援：
主に発展途上国では、 COVID-19 パンデミックに対応した動物飼育の体制を維持するためのリモート環境整備が不十分であったにも拘わらず、それらを構築するための人的･経済的資源が著しく不足していた。ICLAS では、これらへの支援を目的とした制度を策定して直ちに運用することによって、これらの国の実験動物環境の維持に大きく貢献した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">当該国際学術団体の対応する分野の学術の進歩に貢献した事例</td><td>ICLAS は、世界各国・地域の実験動物科学関連学会等を包括する上位組織として、国際標準となるべく、各種の観点からの動物実験にかかる指針・ガイドラインを発出している。近年では：

1) CIOMS-ICLAS International Guiding Principles for Biomedical Research Involving Animals (2015)
2) Perspectives on the Role of Professional Laboratory Animal Science Associations (2017)
3) HARRP (Harmonized Animal Research Reporting Principles) (2018)
4) ICLAS LAQ Network for the Promotion of Animal Quality in Research (2022)

などを公開し（<https://iclas.org/publications/> 参照）、これらは各国の動物実験指針となって、動物実験によってもたらされる科学の品</td></tr>
</table>

	位の向上と世界標準化に貢献しており、動物実験にかかる現行の日本学術会議ガイドラインもこれらを踏まえた改定の検討が進められている。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について	世界各国の様々な研究機関などにおいて、動物実験による人間への直接適用可能な種々の治療法の開発や創薬が進んでいるが、特に人間の精神機能の発達と老化や社会ストレスへの心理的反応に関する研究には、我が国が主導的に進めている遺伝子改変を含む霊長類を用いた研究が不可欠で、その実現への新たな動物倫理規範の策定が急務であり、世界各国・地域の実験動物科学関連学会等を包括する上位組織として、ICLAS はこの新概念のガイドラインの策定と世界への普及に中心的役割を担うことが期待されている。 また、動物実験倫理指針・ガイドラインは、必ずしも世界すべての国で既に充分に策定されている状況にはなく、それら指針の無い国の政府などへの政策策定のアドバイスを行うことが期待されている。具体的には、ジョージア政府より依頼を受けて協力体制の確立を急いでいるところであり、また中南米数カ国（エクアドル、アルゼンチンなど）からも打診を受けて体制の検討を行っている。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて	ICLAS 創設に貢献した元日本学術会議実験動物研究連絡委員会委員長の野村達次の提唱による、世界に先駆けた実験動物の品質規格の概念を、実験動物の品質管理とモニタリングセンターシステムプログラムとして採択し、当時の途上諸国にサブセンターの設置をもたらした。現在この本部（ICLAS モニタリングセンター)を日本に置き、日本学術会議基礎医学委員会 ICLAS 分科会の活動として国内関連分野にも周知しており、動物実験データの信頼性・再現性向上をもたらす実験動物の品質の国際標準化への発展が期待されている。この ICLAS モニタリングセンターは公益財団法人実験動物中央研究所内に設置され（センター長は ICLAS 理事で同分科会委員の林元展人)、2021 年には国内のアカデミア、製薬企業の実験動物施設のサンプルを中心に 33,461 検体の微生物モニタリング検査を行った。ここで得られた知見を元に韓国、タイ、台湾、インドなどアジア各国を中心に広く啓蒙活動を行い、実験動物の品質の向上に大きく貢献している。また、実験動物分野は市場規模が小さく、市販の検査キットが少ないため、ICLAS モニタリングセンターが検査試薬（抗原、抗体、PCR 陽性コントロールなど）を作製し、上述したアジア各国をはじめ諸外国の機関に頒布しており、各国の検査の重要な検査インフラの一端を担っている。また、ICLAS モニタリングセンターは ICLAS が運営する検査技術の自己評価プログラム(Performance Evaluation Program: PEP)の運営に関し、中心的なラボとして参画しており、標準標本の作製や様々なコンサルテーションを行うことにより、世界規模で実験動物の微生物モニタリング技術の向上に大きく貢献している。 ICLAS は創設以来 70 年を経て、設立の精神を踏まえつつ新しい学術・社会環境に適時に対応するために、今後の新たな発展に向けた Strategic Planning を開始した。ICLAS 創設に大きく貢献した日本がこれを主導し、また今後の継続的な本会議の発展を企画する役割を日本選出の副理事長が担うこととなり、新時代の世界の実験動物学コミュニ

	ティーの発展へのさらなる貢献が期待されている。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて	ICLAS は、世界中の官・学・産に亘る会員組織が一致協力して本会ミッションを遂行しており、実験動物学の各専門領域を超えて、動物飼養保管等基準の軌道を踏み外すことなく生命科学研究を科学的・倫理的に適正な方向へと導き、医療イノベーションを例に我が国の国民生活の向上への直接的な貢献が期待できる。 現在、COVID-19 パンデミックや国際社会環境の激変によって、動物実験倫理指針に対する考え方や、世界の実験動物流通のサプライチェーンの構造などが、日本国内にあって感じられるよりも遙かに大きく欧米主導のかたちで急激に変化しており、日本国内の諸体制がこれらへ対応するために必要なリアルタイムの情報収集には、ICLAS のような国際組織での対等な議論に積極的に常時参加していることが不可欠である。 また、欧米主導による世界標準形成に向けた現在の大きな潮流のなかにあって、異なる文化的背景を持つ我が国をはじめとしたアジアなどや他の非欧米の文化圏の考え方を反映するような提言を主導し、我が国の影響力を示して行使することが、日本にとって世界でのリーダシップを確立することに大きく貢献するものと期待される。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）	ICLAS は 2004 年に開始した新プログラムにおいて、実験動物の品質管理とともに動物実験の科学的・倫理的適正化に関する国際協調を目標に掲げて５種類のガイドラインを発出し、国際医学団体協議会（CIOMS）と協働して国際動物実験倫理原則を 2015 年改訂した。このように ICLAS は、社会的・文化的背景や関連法令の違いを踏まえた国際協調によって、実験動物のユーザーをも広く支援する国際組織となっている。 さらに、これらの理念に基づいて、発展途上国における実験動物の品質と動物実験の科学的・倫理的水準の向上を図りつつ世界標準化を促進するために、先進国の先端研究機関との研究および飼育支援人材交流、国際会議への派遣／招聘、各種教育プログラムや資格認定制度の実施など、多岐に亘る奨学金や事業支援のための資金援助などを、ICLAS 地域委員会を通して現地のニーズをもとにした柔軟な運用体制を構築して実施している <https://iclas.org/about-us/>。

２　今後の予定について（内規第 11 条　活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定）	本会は持ち回りで世界各国／地域の実験動物学会と連携開催しており、2024 年に日本開催･招致をする可能性を日本実験動物学会と検討中。
日本人の役員立候補等の予定について	現在、全 16 名の理事定員中、日本学術会議　ICLAS 分科会委員長の入來が副理事長、同委員の林元が理事を務めており、次回 2023 年改選時には両者再任立候補の予定である。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	ICLAS は、世界各国・地域の実験動物科学関連学会等を包括する上位組織として、異なる文化圏の価値観を包括し調和した実験動物の品質や動物実験倫理にかかる世界標準を策定すべく、各種指針を検討している。 とくに、近年特に注目されている、人間の心身メカニズム研究のため

	の霊長類長期介入研究の不可欠性を盛り込んだ、新しい動物実験倫理基準の提案を目指して、霊長類の固有種が棲息しこの分野の研究が特に進んでいる日本が、ワーキンググループを主導して素案を検討中である。

3　国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条　活動報告）

総会・理事会・各種委員会等の状況	総会開催状況	2016 年（開催地：ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）、　2017 年（開催地：ｹｰﾌﾟﾀｳﾝ・南ｱﾌﾘｶ）、 2018 年（開催地：ｺﾞｲｱﾆｱ・ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）、2019 年（開催地：ﾌﾟﾗﾊ・ﾁｪｺ）、 2020 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、　2021 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、 2022 年（開催地：ﾏﾙｾｲﾕ・ﾌﾗﾝｽ）、　2023 年(開催地：ｵｰｸﾗﾝﾄﾞ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ) ICLAS 総会は、傘下の会員学会の地域振興と国際ネットワークへの参加の涵養のために、それらと併催する形で毎年世界各地で持ち回りで開催している。
	理事会・役員会等開催状況	＜理事会＞ 2016 年（開催地：ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）、　2017 年（開催地：ｹｰﾌﾟﾀｳﾝ・南ｱﾌﾘｶ）、 2018 年（開催地：ｺﾞｲｱﾆｱ・ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）、2019 年（開催地：ﾌﾟﾗﾊ・ﾁｪｺ）、 2020 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、　2021 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、 2022 年（開催地：ﾏﾙｾｲﾕ・ﾌﾗﾝｽ）、　2023 年(開催地：ｵｰｸﾗﾝﾄﾞ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ) 上記総会に先だって開催地で理事が一堂に会して、毎年１回包括的な議論をおこなっている。これに加えて、下記の各種委員会および地域委員会から提案される事業や、世界各国会員の活動状況に関しては、随時メールにて理事会審議・承認を行う体制を整えている。 ＜役員会＞ 役員会（理事長・副理事長・事務局長・財務理事の４名で構成）は毎月１回乃至２回、リモートで定期的に、日本から選出の副理事長がこれを主催する形で開催している。
	各種委員会開催状況	2016 年（開催地：ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）、　2017 年（開催地：ｹｰﾌﾟﾀｳﾝ・南ｱﾌﾘｶ）、 2018 年（開催地：ｺﾞｲｱﾆｱ・ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）、2019 年（開催地：ﾌﾟﾗﾊ・ﾁｪｺ）、 2020 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、　2021 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、 2022 年（開催地：ﾏﾙｾｲﾕ・ﾌﾗﾝｽ）、　2023 年(開催地：ｵｰｸﾗﾝﾄﾞ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ) 地域（大陸）別委員会、機能別委員会などの各種委員会は、上記総会開催時にそれぞれ一堂に会して開催するとともに、随時オンラインおよびメールによる審議を行って、機動的な活動を継続している。
	研究集会・会議等開催状況	2016 年（開催地：ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）、　2017 年（開催地：ｹｰﾌﾟﾀｳﾝ・南ｱﾌﾘｶ）、 2018 年（開催地：ｺﾞｲｱﾆｱ・ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）、2019 年（開催地：ﾌﾟﾗﾊ・ﾁｪｺ）、 2020 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、　2021 年（ｵﾝﾗｲﾝ開催）、 2022 年（開催地：ﾏﾙｾｲﾕ・ﾌﾗﾝｽ）、　2023 年(開催地：ｵｰｸﾗﾝﾄﾞ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ) ICLAS は、総会等の各種会合を傘下の会員学会の地域振興と国際ネットワークへの参加の涵養のために、それらの研究会／年次総会等と併催する形で毎年世界各地で持ち回りで開催しており、ICLAS 役員や理事がそれらの地域学会におけるシンポジウムや各種行事に積極的に参画して、科学的水準の向上などそれぞれの地域に合った形での貢献をする体制をとっている。
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		2022 年　総会／研究集会（ﾏﾙｾｲﾕ・ﾌﾗﾝｽ）　３人（入來篤史） （但し現地対面参加者のみ） 2019 年　総会／研究集会（ﾌﾟﾗﾊ・ﾁｪｺ）　20 人（入來篤史） 2018 年　総会／研究集会（ｺﾞｲｱﾆｱ・ﾌﾞﾗｼﾞﾙ）　10 人（入來篤史）

<table>
<tr><td></td><td colspan="4">2017 年　総会／研究集会（ｹｰﾌﾟﾀｳﾝ・南ｱﾌﾘｶ）　　５人（入來篤史）
2016 年　総会／研究集会（ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ）　　70 人（入來篤史）
併催地域会員学会の土地柄や形態によって日本人参加者数に変動があるが、日本人理事・役員は必ず参加して地域振興に努めており、世界各地における日本およびその研究水準のプレゼンスの確立向上に大きく貢献している。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">国際学術団体における日本人の役員等への就任状況

（理事定員 16 人中）</td><td>役職名</td><td>役職就任期間</td><td>氏名</td><td>会員、連携会員の別</td></tr>
<tr><td>副理事長</td><td>2019～2022</td><td>入來篤史</td><td>（　25 期）　連携</td></tr>
<tr><td>理事</td><td>2019～2022</td><td>林元展人</td><td>（　25 期）　連携</td></tr>
<tr><td>理事</td><td>2015～2019</td><td>入來篤史</td><td>(23,24 期）連携</td></tr>
<tr><td>副理事長</td><td>2011～2015</td><td>鍵山直子</td><td>（　22 期）　連携</td></tr>
<tr><td>出版物</td><td colspan="4">１　定期的（年 12 回）　主な出版物名　　ICLAS News Report

２　不定期（　　）　主な出版物名</td></tr>
<tr><td colspan="5">活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載
（https://iclas.org）</td></tr>
</table>

４　国際学術団体に関する基礎的事項（内規第 3 条、4 条、5 条）

<table>
<tr><td rowspan="3">国内委員会（内規４条第３号）</td><td>委員会名</td><td>基礎医学委員会 ICLAS 分科会</td></tr>
<tr><td>委員長名</td><td>入來篤史</td></tr>
<tr><td>当期の活動状況</td><td>（開催日時　主な審議事項等）
第一回分科会（令和３年１月 14 日；オンライン開催）
1. 役員(委員長、副委員長、幹事)の選出、特任連携会員の委嘱
2. 動物実験にかかる学術会議ガイドラインの、「CIOMS- ICLAS ガイドライン」改訂に対応した更新
3. ICLAS 創立以来60年ぶりの「基本理念」の改訂への寄与
4. 国内関連学会との連携強化の具体的方策
5. 動物実験倫理に関する現状</td></tr>
<tr><td rowspan="6">内規第３（国際学術団体の要件関係）</td><td colspan="2">国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である
①．該当する　　２．該当しない
※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載（https://iclas.org/about-us/）</td></tr>
<tr><td colspan="2">各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）
①．該当する　　２．該当しない
※根拠となる資料の添付又は URL を記載（https://iclas.org/iclas-membership-list/）</td></tr>
<tr><td colspan="2">下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに〇印）

㋐ 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの

イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの

ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの

エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">10 ヵ国を超える各国代表会員が加入している
①．該当する　　２．該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">加入国数及び主要な各国代表会員を 10 記載</td><td>（　50 ヶ国）</td></tr>
<tr><td>・各国代表会員名／国名
・Ministry of Science and Innovation / Spain
・Ministry of Agriculture / Hungary
・Swedish Research Council / Sweden</td></tr>
</table>

		・National Research Council / Italy ・Ministry of Health and Welfare / Korea ・National Research Council of Thailand / Thailand ・National Health & Medical Research Council / Australia ・The Royal Society of New Zealand / New Zealand ・National Council on Research / Brazil ・National Academies of Science, Institute for Laboratory Animal Research / USA